

将来像を共有しながら歩みを進める一年に

厚真町長 宮坂尚市朗

新年明けましておめでとうございます。厚真町長の宮坂でございます。

令和 8 年の輝かしい新春を迎えるにあたり、町民の皆さんに謹んでごあいさつ申し上げます。旧年中は、町政諸般にわたり格別のご理解とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

平成 30 年北海道胆振東部地震から年月を重ねても、犠牲となられた方々への痛悼の念は、片時も薄れることはありません。あらためてご冥福をお祈り申し上げますとともに、関係機関、ボランティア、そして全国の皆さんのご理解ご支援に、深く感謝を表します。私たちは、「震災に埋もれた悲しいまちで終わらせない」という決意を胸に、復旧の道を歩んでまいりました。砂防事業、かんがい排水事業、治山事業は完了し、生活と生産の安全は向上しました。長い時間軸となりますが、被災森林の再生も、「記憶のバトン」として次世代へ継承しながら着実に進めております。

これからは復旧にとどまらず、「事前復興・創造的復興」の実現に力を注いでまいります。日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震を想定した緊急避難施設の設置、個別具体的な避難計画の策定など、命を守るための対策を丁寧に実装してまいります。頻発化・激甚化する自然災害に対応するため、住民の皆さんと学びながら、地域防災力を盤石なものへと向上させてまいります。

また、厚真町が属する千歳・苫小牧地域は、北海道経済を牽引する地方拠点地域として注目されています。この好機を捉え、北海道電力との連携のもと、再生可能エネルギーの地産地消を深化させてまいります。災害時も機能するレジリエントなライフラインは、被災地だからこそ描ける希望であり、未来への確かな投資です。

さらに、二地域居住の受け皿づくり、地域産業の担い手確保と後継者育成、教育と就労を結ぶ好循環の創出を図ってまいります。産・官・学・民が協働し、挑戦が報われ、暮らしに安心をもたらすまちづくりを進めます。地域福祉サービスも、民間の創意と相互扶助を生かした包摂的な仕組みへと再構築し、「厚真を選び、厚真で暮らす幸せを実感し続けられるまち」を実現してまいります。

本年からは第 5 次厚真町総合計画がスタートいたします。引き続き、「誰一人として取り残さない」を合言葉に、100 年先も安心して暮らし続けられるウェルビーイングな厚真町を目指してまいりましょう。

十干十二支で「丙午（ひのえうま）」にあたる本年が、継続を力に挑戦の意欲を掻き立て、投資から成長の果実に変える一年となることを願っております。町民お一人おひとりのご健勝とご多幸を心より祈念し、年頭のごあいさつといたします。

本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。